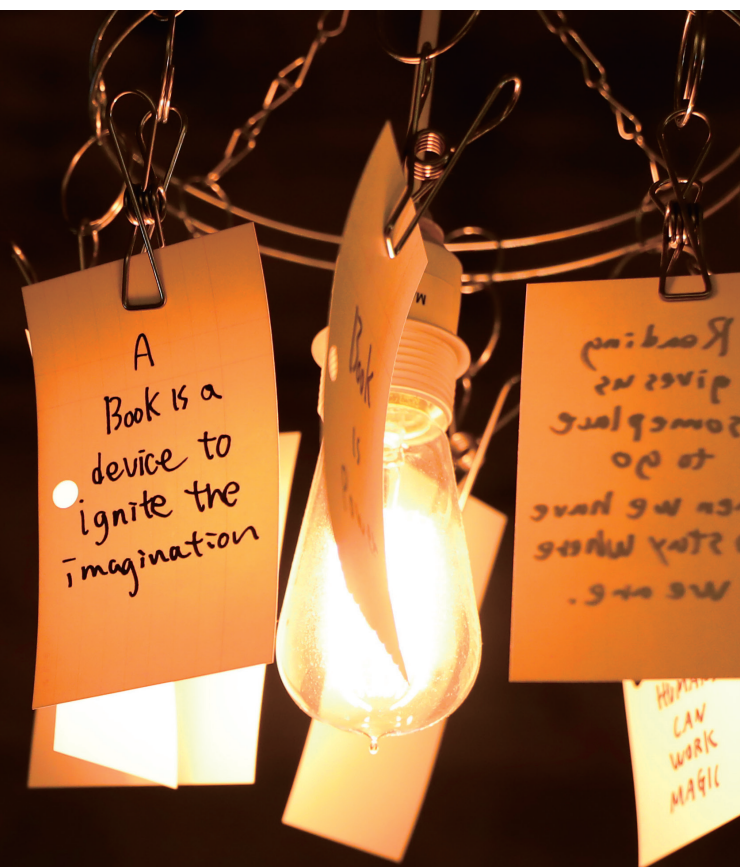


大正大学広報誌【鴨台 おうだい】 2017 AUTUMN OHDAI Vol.103

2017年10月2日発行(通巻 第103号)

発行/大正大学 〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1

TEL. 03-3918-7311(代表)



<https://www.tais.ac.jp>

ココロつなげる大正大学のキャンバスマガジン

# OHDAI

## ご意見・ご感想募集

「鴨台」では、皆さまからのご意見やご感想を募集しております。本誌に関するご意見やご感想、大正大学での思い出など、今後の誌面作りの参考にさせていただきますので、ぜひお聞かせください。

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1

大正大学 企画調整課「鴨台」係

kouhou@mail.tais.ac.jp



大正大学

スガミで輝む  
日常の未来。



# OHDAI

VOL.103

本のプロに聴く 03  
「本と私」

本との出会いを考える 07  
「本とあなたを繋ぐ素敵な空間」

表現が形づくる 09  
「さまざまな本の“カタチ”」

今日のセンセイ 11

OUR RECOMMEND 13

特集

## BOOKS: 本のハナシ







# 特集

## BOOKS : 本のハナシ

文学やアート、カルチャー、趣味、歴史など、  
世界をどこまでも広げてくれる「本」

「私が人生を知ったのは、人と接したからではなく、本と接したからである。」これはノーベル文学賞を受賞したフランスの詩人・アナトール・フランスが残した言葉です。本は知識を得るためだけのものではありません。今号では、本だけにしかない魅力を、本に関わる仕事、本の形態、そして本との出会いの場である書店など、さまざまな角度から紹介します。本好きの方も、そうでない方も、本とのかかわり方を考えなおすきっかけになるはずです。

### #103 CONTENTS

- 03 本のプロに聴く  
「本と私」
- 07 本との出会いを考える  
「本とあなたを繋ぐ素敵な空間」
- 09 表現が形づくる  
「さまざまな本の“カタチ”」
- 11 今日のセンセイ
- 13 OUR RECOMMEND
- 15 連載企画  
「OHDAI With」
- 19 連載企画  
「#Ohdai Instagram 103」
- 21 [大正大学] 最新情報  
「T-DUCK NEWS EXPRESS」



## SPECIAL FEATURE

本のプロに聴く

# 「本と私」

本に関わりの深い方々に、ご自身のお仕事や、本の魅力とその楽しみ方についてお話をお伺いしました。

#1

作家  
石田 衣良さん

### PROFILE

1960年、東京都生まれ。'84年成蹊大学卒業後、広告制作会社勤務を経て、フリーのコピーライターとして活躍。'97年「池袋ウエストゲートパーク」で、第36回オール読物推理小説新人賞を受賞し作家デビュー。'03年「4 TEEN フォーティーン」で第129回直木賞受賞。著書多数。



石田衣良のブックサロン  
「世界はフィクションでできている」主催  
<https://yakan-hiko.com/meeting/ishidaira/top.html>



## Interview

### 過去からの教訓、未来への指針。本が与えてくれる力は無限大

#### 1冊の本から別世界へ、想像する楽しさが作家の道を選ばせた

本が持つ1冊の魅力は、日常とは別の世界に連れて行ってくれるところ。ページをめくった瞬間に別世界に飛び込めるのはワクワクします。僕の場合、幼少期に1950年代のアメリカのSF冒険活劇を読んだことがきっかけで読書好きになり、7歳の時には1日に2回は図書館に通っていました(笑)。

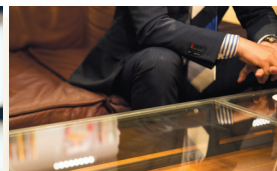
また、読書を通し、すでにこの世にはいない人の声を聞くことができたり、歴史を知ることができるのも魅力の1つですね。知らないことを知ることで、知識欲を満たし、心を豊かにしてくれる。こんなにみんなを楽しませられるのなら本を書くこともきっといい仕事に違いない、と思ったことで作家を志すようになりました。

#### 本は使い勝手の良い道具。使いこなせば武器になる

若い人の活字離れは、ネットを通じて目の前にフローの情報が流れてくるようになったためだと思います。情報も活字もその日暮らしなんです。本を読む人と読まない人とは社会に出てからの評価が相当違ってくるので、豊かな生活をしたいなら「学生のうちに本を読んだ方がいいよ」とは言っておきたいですね。

本の数は膨大にありますから、読書を通し蓄積した知識は世界でも自分だけのオリジナルになります。読む習慣ができていないうちは、好きなジャンルを集中的に読んでみて、だんだんと裾野を広げていく方法が良いかもしれません。たとえば、恋愛小説を読むうちに人間の存在について考え始め、社会科学にまで手を伸ばすといったやり方。本を読まない人は、本を格式高くとらえがちです。そもそも本を尊敬する必要はなくて、本を何にでも使える道具だと思ってみるのが、僕は大切だと思っています。

良い本は良いスニーカーみたいなものです。走れるし、山も登れる。そういう風に本を使いこなせる人が強くなっていく。どんな仕事でも、文章を書く作業は必ず付いて回るので、言葉の力や表現力、そして体系化された知識を身に付けることは社会に出てから絶対に役立つはずです。



僕もですが、どの作家も「死ぬ前にこれだけは言い遺しておきたい」ということを必ず書いていると思います。何十万人の優れた先人たちの知識が本に蓄えられていると考えれば、その知識を使わないなんて損ですよね。使いながら、自分はどうなんだろう、明日はどうなるのだろうと考える。それを一生続ければ、気が付いた時にはすごく高いところに登れていると思います。

本の世界は新しく参加してくれる人を熱烈に待っています。今からでも遅くないので、まずは一週間に1冊、本を読む習慣を身に付けて、自身に合った書物と出会ってほしいですね。



本を読んでいるから仕事ができるし、異性の目にも魅力的に映るきっかけになります

こういう仕事を長く続けて、映像や広告などの企画にもたくさん関わってきましたが、良い企画を出す人は必ず本を読んでいます。逆に読まない人は人に使われている人が多い印象を受けますね。それに本を読んでいる人はモテます(笑)。実際、知識をひけらかすのではなくて、印象に残るちょっとした一言が言える人って素敵だと思いませんか。職場でも異性の目にも魅力的に映る、そんな人になってください。





## 「本と私」

#2

三栄書房 vikka編集長  
稲田 香奈子さん

### PROFILE

大学卒業後、美容専門誌の誌面作りに携わる。その後、ファッション誌、旅行情報誌などさまざまな雑誌制作を経験し、現在は「vikka」編集長として、多彩な企画を手がけている。休日はフットサルや自転車で体を動かしてリフレッシュしているそう。



作品名  
「vikka(ヴィカ)」

### Interview

誰かに影響を与えられる本をつくりたい。  
その思いで出版業界に足を踏み入れました

新しい世界との出会いのきっかけはいつも本

真摯に求めているものがある時に書店や図書館に行くと、不思議とその瞬間の自分自身にあった本が現れてくれる。そこが本の魅力だと思っています。

私が編集長を務めている「vikka(ヴィカ)」という雑誌は、2015年に新創刊をしたのですが、新しいことをやると、良い反応もある反面、逆も然りです。「vikka」をどんな雑誌にしていこうか迷っていた時、書店で出会ったのが坂東眞理子さん著の「女性の品格」という本でした。

「“品格”という日本語って、改めて聞くとすごく素敵な言葉だな」と感じたのがその本を手にとったきっかけです。本の内容は、礼状をこまめに書く、流行に飛びつかない、聞き上手になる……といった、上品で魅力的な人になるためのノウハウが詰め込まれていたのですが、それを読んだ時に、ふと「こんな女性になれたら素敵だな」と頭をかすめたことで、こちらの本をモチーフに企画を組むことにしました。結果、非常に手応えを感じられる号となり、新生「vikka」の目指すところも見えました。いつも新しい世界を見せてくれる。本にしかない力だと思います。





### 死ぬまで好きでいられる“何か”を見つけてほしい

物心ついた時から本が好き。月並みですが、それが編集者を目指すきっかけでした。中でも影響を受けたのは、中学生のころに読んでいたファッション誌。地方に住んでいた私にとって、雑誌を通して知る世界は新鮮な驚きとともに「私も誰かに影響を与えられる本をつくりたい」という思いを芽生えさせてくれました。そのせいもあってか、私が大学生だった当時から、すでに出版不況は叫ばれていましたが、自分の中には将来は編集の仕事に進むという選択肢ひとつしかありませんでした。

ウェブメディアが進化する一方、紙媒体の衰退が叫ばれていますが、私は「紙はなくなる」と思っています。弊社でもSNSやイベントなどを活発に行っていますが、それもすべて紙ありきのことですし、たまに「何百年も前の書物が出た」なんてニュースを耳にすると、先人たちからのメッセージなのかも、と感じます。だから、編集者になりたいと思っている学生さんにはその志をなくさないでほしいですね。

また、編集者を目指すなら、学生時代はアクティブに遊んで、色んな経験を積んでほしいです。その中で「死ぬまで好き」と思えるような自分の趣味や得意分野を見つけてほしい。実は編集者って、少なからず「この分野は誰にも負けない」というものを持っている人が多いんです。しかもそれが仕事で武器になる。そういった人たちが集まってひとつの本ができています。なので、ぜひ大正大学みなさんも、一途に追いかける“何か”と出会えるように、学生時代を謳歌してください。

HINT OF LIFE

人生のヒント

自分が情熱を注いだものは読者にも伝わる  
「面白い」と思えるものとの出会いを大切に

売れる企画にしようとするとなぜか売れない、というのが雑誌のあるあるなのですが(笑)、流行りとか関係なく好きなことを企画にすると、思いがけず大きい反響があったという経験もよくあります。自分たちが「面白いから伝えたい」と思った情熱が読者に伝わるからなのかもしれません。どこに落ちているかわからない「面白い」を見つけるためにも、幅広くアンテナを張り、何事にも果敢に挑戦してください。





対談：本との出会いを考える

## 「本とあなたを繋ぐ素敵な空間」

書店を経営される中村さんと、出版社で編集者をされている尾形さんに、書店や本との出会い方について語っていただきました。



SNOW SHOVELING  
BOOKS & GALLERY・店長

中村 秀一さん

## Profile

フリーランスとして、個人商店や中小企業のデザイン、販売戦略を中心にお手伝いをする。2012年に、長年住んでいた駒沢に「SNOW SHOVELING BOOKS & GALLERY」をオープン。



株式会社セブン&アイ出版  
編集グループ書籍編集部

尾形 和華さん

## Profile

1991年生まれの千葉県出身。読書好きが高じて大正大学表現学部に入學。編集について学ぶ。卒業後、フリーランスの編集者として株式会社宝島社に3年間勤めた後、経歴を生かして現職に至る。



CROSS TALK!

## 登場人物や情景を想像する分、本は体に染み込む

尾形：中村さんは、どんなきっかけで書店を始めたのですか？

中村：幼少の頃から本をよく読んでいて、私自身が本に助けられて生きてきたので、本屋に携わって、本の魅力を少しでも多くの人に伝えていきたいと思ったことがきっかけですね。

尾形：本に助けられたと言いますと？

中村：物語を通して得た記憶は、どこかで引き出せる。そんな記憶にずいぶん助けられてきました。キリスト教の信者に聖書が染み込むようにね。

尾形：物語といえば小説になりますね。最近はネット小説にも人気が見られますが、出版物に比べると編集者や校正者といった、人の手がかかっていないぶん完成度が低く、場面を想像しにくいように思います。

中村：デジタルネイティブと言われる若い世代の子は、物心ついた時から映像を含む情報量の多いメディアがあって、想像する機会が少ないんですよね。本は容量が小さく効率が悪い媒体ですが、想像して理解する分、浸透力は強い。



本のストロングポイントはそこだと思います。

尾形：以前にいた出版社ではSNSをまとめたような本も扱っていて、センテンスが短くて読みやすいのか、若い方には売れていましたね。

中村：売れる本と作りたい本のビジネス的なバランスは難しい時代ですよね。でも強い意志で何かを伝えたいと思う場合、100万人には届かなくても50人には届く時代でもあって、隙間はたくさんあります。

そこは書店の多様性にもつながっていて、ある分野に特化した本を重点的に扱ったり、ギャラリーやカフェを併設したりと、採算性を度外視した個性的な店も増えています。経済的にはともかく、文化的には活性化されているのではないのでしょうか。

尾形：書店の多様化が進んだ背景には、本の

価格が上がって価値をシビアにチェックするために、売場にいる時間が長くなったことも関係しているのかもしれませんがね。出版社側でも表紙のデザインなどを工夫し、一目見ただけで興味をひき、購入に結びつくクオリティが、今まで以上に求められています。





## Locate Information



### SNOW SHOVELING BOOKS & GALLERY

ブックストア兼ギャラリー、スノウショベル  
グ。本、物、人との偶然の出会いを楽しむス  
ペース、自称出会い系本屋。

#### Info

158-0081  
東京都世田谷区深沢4-35-7 2F  
OPEN 13:00 ~ 19:00  
CLOSED 水曜日

中村さんのお店ではお客様の反応はいかがですか？

中村：私が勤めている書店は、端っこに位置する本屋なので一般論は通用しませんが、逆に即効性を排除した本を主に扱うようにして、そこに価値を見出すようにしています。

## 本は出会うもの、カッコイイもの

尾形：この先、書店と出版社のあり方についてはどう思いますか？

中村：少なからず、自然淘汰はあると考えています。けれども、良きものには残ってほしいという想いはありますね。情報はスマートフォンなど電子媒体で入手するけれども、お気に入りの物語は書籍で持っていたい、というような。

尾形：我々も情報があふれることは歓迎なんです。多くの情報の中から、本当に興味がある情報については専門書なりを手元においてほしい。本を手にするタイミングが増えることを願っています。

その点では幅広いジャンルを俯瞰できる書店は、本と出会うかけがえのない場所です。表紙のタイトルを見て、何かを感じてページをめくる。この瞬間はネット通販では味わえません。

中村：たとえば、憧れの先輩が読んでいる本を書店で探してみるとか、カッコイイから読む、みたいなスタンスでも出会えると思いますよ。

私の場合はジャック・ケルアックという小説家が憧れで、代表作の「On the road」をいつか読んでみたいというのが本に対する原動力でした。面白かったかどうかよりも、分厚い本を読んだという達成感を得られるだけでも良いと思います。

尾形：社会に出ると仕事で読まされる本も多いので、時間のある学生時代こそ、好きな作品や作家さんを見つけられるチャンスなんですよ。「好きな本は？」と聞かれたらすぐに答えられる一冊を見つけてほしいと思います。

中村：大学に入った時点で自分の人生が見えている方は、ほとんどいませんからね。良い友人と良い本に出会うことを目標にしています。ある作家の受け売りですが、自分に合う一冊の本と、外から自分を評価してくれる友人が人生を照らしてくれるはずです。





## 03

表現が形づくる

## 「さまざまな本の“カタチ”」

あなたはいつもどんな本を手にしていますか？ 小説に雑誌、マンガに絵本…。本は発信する情報や、その目的によってさまざまな形に変化します。本をつくる工程もまた同じ。形が変われば、製作工程も変わります。読者にはあまり知られていない、本の製作工程の裏側についてご紹介しましょう。



## MAGAZINE

総合誌、専門誌、趣味・娯楽から情報誌まで

## 雑誌

週刊、月刊など、定期的に刊行され、「食」、「ファッション」、「ライフスタイル」などの娯楽情報や、専門的な情報を紹介する出版物。

雑誌ができるまで

企画立案 ▶ 原稿制作 ▶ ネーム制作 ▶ 校了作業 ▶ 印刷・販売

発売の約2カ月前に、どのようなトピックを取り上げるか、企画を考えるところからはじまります。ライターやカメラマンと打ち合わせをした後、写真の大きさや配置、文章の文字数などを記した、レイアウトを作成します。

## NOVEL

内容や形式にとらわれない文学

## 小説

作者の構想によって、人物や事件などを中心に組み立てられ、人間社会のさまざまな面を描く散文体の文学。

小説ができるまで

企画立案 ▶ 著者やライターから原稿入稿 ▶ レイアウト作成 ▶ 校了作業 ▶ 印刷・販売

一般的な書籍は、約3カ月で1冊が完成しますが、作品テーマによっては数年もの歳月を要することもあります。編集者は、常に時代の流行に沿って企画を考えます。その企画にあった作家やライターを探して原稿を依頼し、その原稿をもとに細かいレイアウトを決めます。



## MANGA

絵と活字で物語を展開させた娯楽媒体

## マンガ

週刊、月刊など定期的にさまざまな漫画が掲載されているものや、単行本のような1冊だけで単独に刊行された本

マンガができるまで

ストーリー決定 ▶ ネーム作成 ▶ 原稿作成 ▶ 校了作業 ▶ 印刷・発売

週刊誌は、発売の3週間前に漫画家と編集者がストーリー作りを始めます。おおまかな展開が決定した後、漫画家は数日で下書きを完成させ、編集者はその下書きのセリフ文字や登場人物の服などを校正します。展開が決まった後も、画や細かいセリフまでを印刷間際まで試行錯誤を繰り返します。



# NEWS PAPER

社会で起きている出来事を短時間で伝える

## 新聞

ニュース、意見、特集など大衆が関心を持つ情報を提供する日刊や週刊などの定期刊行物。

新聞ができるまで

取材・執筆 ▶ 原稿作成 ▶ 編集会議 ▶ 紙面作製・校正 ▶ 印刷・配達

日刊の新聞は、前日の17時までに記者たちが集めた原稿を取りまとめ、編集会議を行います。そこで、その日の紙面作りの方針を立てて紙面を作り上げます。記事の内容に誤りがないか校閲した後、印刷します。

# PICTURE BOOK

読書生活のなかで、初めて出会う本

## 絵本

絵と文からなる図書で、絵を見るだけで話の筋が読み取れて、芸術性を備えており、絵と文が調和して一つの物語を作り上げている物。

絵本ができるまで

打合せ ▶ アイディアスケッチ ▶ テキスト・原画作成 ▶ レイアウト・校正 ▶ 印刷・製本・販売

テーマや内容について作家と編集者で打合せを行います。たくさんアイディアスケッチを出し合ってテキスト、ラフ、原画、レイアウトと細かい工程を経て完成します。作品にもよりますが、構想から製作まで6年かかるものもあります。

# FREE PAPER / MAGAZINE

形態が自由で、無料配布されるもの

## フリーペーパー

一般的には広告収入で刊行されている刊行物。毎号読者のニーズや冊子の目的に合わせたテーマを企画し、制作。

フリーペーパーができるまで

企画立案 ▶ レイアウト作成 ▶ 取材・撮影 ▶ 校了作業 ▶ 印刷・配布

読者のニーズや冊子そのものの目的を念頭に置き、冊子として発信する目的を盛り込んだ企画を明確に立てます。企画全体の流れを考え、どのような構成にするかを決定し、必要な素材を準備した後、編集作業に入ります。

こんなものもあります。

さまざまな、「本」の広がり

## NEW WAVE OF BOOKS

電子書籍

Zine・リトルプレス

他の媒体にはない独自の魅力が詰まった、新しい本のカタチ

「本」と一口にいっても、さまざまなカタチがあります。近年、主流となりつつある電子書籍のほかに、「Zine」または「リトルプレス」と呼ばれる少量自主制作書籍が今話題を集めています。誰もがスマホやデジカメで写真を撮り、ブログやSNSで自分の作品を発表できる時代に、あえてwebではなく、印刷物としての形態をとりながら、自費出版よりもリーズナブルで自由度の高い、オーダーメイドの書籍をあなたも作ってみませんか？



## TODAY'S TEACHER

今日のセンセイ





今日のセンセイ

# HITOSHI TANAKA



文学部 日本文学科

田中 仁先生

## PROFILE

1980年生。父はドラマラー、母はかつて歌手という家庭に生まれ育つ。大学・大学院では日本古典文学（日本近世文学）を専攻。高校や高专、大学で教壇に立ったのち、2017年、本学日本文学科に着任。1児の父。

## 「古典文学から考える、本の魅力」

本は普段はただ静かにそばにいただけの存在ですが、ひとたび何かを問いただければ必ず答えてくれます。

本の魅力について、私なりに思うところは、本を通して「人間」という存在を見つめることができるということです。また、自分が経験していないこと、経験できそうもないことを仮想体験させてくれるのも、本が持つ大きな魅力であると思います。

私の専門は、日本古典文学、とくに江戸時代の文学です。文学の扱うテーマは実にさまざまですが、なかでも江戸時代の文学はそれ以前の文学と比べてみてもとりわけ多彩です。人が生きていく上で誰もが抱えるであろう問題、例えば、老いや病、貧富の格差、欲望、道徳、自然災害など、挙げればきりがありません。それらのどのような問題に対しても考えるヒントを与えてくれるのが江戸時代の文学だと私は思っています。

なかなか先行きの見通しがきかない今の時代、私たちは時として悩んだり迷ったりしながら日々を生きています。そうした私たちの切実な問いかけに対して、何かしらの答えを与えてくれるような奥深さ、何が出てくるかわからない面白さ

が江戸時代の文学にはあります。

私の場合、江戸時代から明治時代までのさまざまな「和本」をできるかぎり収集しています。古書店や古書市で入手した和本の中には、時折、旧蔵者の「書き入れ」があったり、「蔵書印」が押されていたりします。『徒然草』の一節に“見ぬ世の人を友とす”という言葉がありますが、和本を読むときにはその本の著者とだけでなく旧蔵者とも向かい合っているような気持ちになります。かつて誰かが所蔵していた本が巡り巡って今は私の書棚にあるということ、そして、この本もいつか将来、私の手を離れて誰かの書棚に収まる日が来るということ、を想像すると、あたかもリレー選手がバトンの受け渡しをするように、自分はそれをほんの一時だけ預かっているに過ぎないのだということに気づかされるのです。

そう考えてみると、本というものは、時間も空間も超えて絶えず移動し続ける永遠の旅人のような存在だとも言えるのかもしれない。

## FOCUS!

### 日本近世文学



江戸時代中期から幕末明治期にかけての和歌や歌人について研究しています。

江戸時代の文学は、それ以前の文学が培ってきた知と教養をある時は受け継ぎ、ある時は打ち破りながら自らを形作ってきました。江戸時代の和歌も例外でなく、伝統を受け継ぎあるいは打ち破りながらさまざまに展開しました。江戸時代の和歌がどのような位置にあったのか、幕末・明治期の歌人たちはどのような態度で歌を詠んだのか、などに関心を持っています。



OUR RECOMMEND



みんなの、オススメ。

大学生の今だからこそ読んでほしい！  
大正大学の学生が選んだ、オススメの一冊を紹介。

RECOMMEND

1



## 『ザ・ビデオ・ゲーム・ウィズ・ノーネーム』 赤野工作／KADOKAWA

未来のゲームを想像したことってありませんか？ 例えば、本当にそこにいるかのような臨場感を楽しめるVRゲーム。あらゆるゲームの対戦相手になってくれるロボットなんかもできそうじゃないですか？ この本ではそんな夢いっぱいゲームのレビューを読むことができます。ただし…とびつきの低評価を受けたものを。

さまざまな理由で低評価を受けてしまったゲーム。未来にも、そんなゲームは生まれているんじゃないのか。そして、そんなゲームを喜んで遊ぶゲーマーもいるんじゃないのか。そんな未来を描いた本です。

特に僕が好きなゲームは「天幻地在マリオネット」で、4Dプリンターで自分の思い描いたパーツを作り出しロボットをカスタマイズして遊ぶというゲームです！どんな理由で低評価になってしまったのかは、ぜひご自分の目で確かめてみてください。

ゲームの何が楽しいのか。生まれた時からゲームがあって、ゲームと一緒に育ってきたみなさんにぜひ読んでもらいたい本です。

ゲーム好きには  
たまらない一冊！



臨床心理学科 臨床心理学コース 3年

岩本 龍太さん

〔東京都 深川高等学校出身〕

RECOMMEND

2



## 『ねずみの騎士デスペローの物語』 ケイト・ディカミロ／ポプラ社

誰も、まわりとは違う何かがある。『ねずみの騎士デスペローの物語』は矛盾を抱えるねずみと人間たちを描いた児童書だ。

小さな体に大きな耳を持つハツカネズミのデスペロー。本のインクをかじり食べるより物語に入り込む変わりもの。ある日、人間のお姫さま・ビー姫に恋に落ちる。日の当たらない地下牢で暮らすドブネズミのキアロセキュロ。光と闇に由来する名前のせいか、光への憧れを募らせていく。ある日地上へ飛び出した彼はひときわ輝くビー姫に目を奪われる。しかし、思いのまま行動した2匹に訪れたのは悲劇だった。

大学生活の中でアイデアを出す機会が多い。意見が食い違うこともある。どうすればいいのか。本書は自分で答えを探さない、と言う。例えば、「背信」という言葉を知っていますか？ 知らなければ辞書で調べてごらん、と。

はじめて読んだときは小学生だった。込められたメッセージは大学生になった私にも、いや、今だからこそ刺さるものだった。

大人にこそ響く  
児童書！



表現文化学科 出版・編集コース 4年

高松 みゆうさん

〔東京都 城西大学附属城西高等学校出身〕



RECOMMEND

3



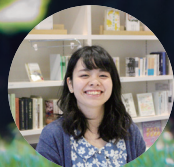
## 『『ミステリーの館』へ、ようこそ 一名探偵夢水清志郎事件ノート』 はやみねかおる／講談社

この物語は、名探偵の「夢水清志郎」が隣に住む三姉妹と一緒に難事件を解決していくシリーズの第10作目です。世界的マジシャン・グレート天野が作り上げたテーマパーク「ミステリーの館」で、夢水こと「教授」は小さな箱を手に入れます。中には《本物のミステリーの館》の鍵が入っていて——。はたして教授は数々のマジックのタネと、それを仕掛けたマジシャンを見破れるのでしょうか。

夢水シリーズは、「教授」という個性的なキャラクターと、「誰も死なないミステリー」であることが魅力だと思っています。そして数ある夢水シリーズの中でもこの本が面白いのは「本の一部が袋とじになっている」ことです。小学生の頃、はじめて袋とじを開けると「この奥にどんな謎が待っているのだろう」と、とてもワクワクしたのを覚えています。

子ども向けと侮ることなかれ。ぜひ皆さんにも、ワクワクとドキドキがたくさん詰まったこの袋とじを開けてみてほしいです。

袋とじにワクワクが  
詰まっています！



人文学科 日本語日本文学コース 4年

中村 萌香さん

〔東京都 美原高等学校出身〕

RECOMMEND

4



## 『図書館の魔女』 高田大介／講談社

物語は山奥の小さな集落から主人公のキリヒトが立出るところから始まります。彼はある任務を帯びて都へと向かうことになったのです。その任務はすべての言葉を司り、人の心も操ることという図書館の魔女、マツリカに仕えること。そのように畏れられる彼女は「ことば」を話せず手話のみで会話する幼い少女だった。二人の交流を中心に国家間の問題を解決していく恋愛側面もミステリーの側面も持っている、本を愛する全ての人へ向けられたファンタジーがこの作品です。ゆっくりとしたペースで進む物語ですがどんどんその世界観に引き込まれていきます。その理由の一つは言語学者の作者が選ぶ言葉の一つひとつが美しいこと。固有名詞以外はカタカナを使わない文章はとっつきにくかったり難しかったりしますが、調べながら読むことで自分の語彙を増やすこともできました。言葉の通じない者との間にも交わせる「ことば」があること、そんなことを私に教えてくれた素敵なお話です。

言葉の一つひとつが  
美しい！



日本文学科 1年

諏訪 栞さん

〔千葉県 船橋啓明高等学校出身〕

RECOMMEND

5



## 『土偶界へようこそ—縄文の美の宇宙—』 譽田亜紀子／山川出版社

全国の土偶の写真や説明が書かれている。私はもともと土偶が好きで、家に4体の土偶がいる。4体のうち2体は、高校生のときに修学旅行で奈良に行ったときに購入をした。手作りなので表情が違い、どれを買うのかとても迷った記憶がある。もう2体は去年青森県に行ったときに購入をした。こちらは大きいので箱に入れたまま現在も保存をしている。土偶はなんのために作られたものか、いつ作られたのか、なにをモチーフに作られたのか、が一つひとつの土偶に込められているように感じる。

本には、70体の土偶について書かれており、360度から土偶を見ることができる。繊細な技術を見ることができる。縄文時代の人々が土をこねたり、道具を使ったりして作っている様子が浮かんでくる。かわいらしい土偶がいっぱい詰まっているので、ぜひ自分のお気に入りの土偶を見つけてみてください。

360度から土偶を  
見ることができます！



教育人間学科 教職コース 3年

園田 純さん

〔静岡県 静岡高等学校出身〕



# OHDAl With

大正大学で共に「つ・な・が・る」  
仲間たちの姿を、語り尽くそう

「本当の腹底から出たものでなければ、  
人を心から動かすことはできない」とはゲーテの言葉。  
本音だからこそつながった仲間がここに居る。

FROM VOL.102 >



今回は谷下さんから田口さん  
すてきな【学生スタッフ】  
つ・な・が・りでスタート!







## 吹奏楽部 [部活]で、つ・な・が・る



NARUMI TAGUCHI

田口 成美 さん

歴史学科 日本史コース 2年  
[埼玉県 春日部女子高等学校出身]

とにかくいつも明るくて社交的な関口さんの、誰にでも分け隔てなく接しているところをとても尊敬しています。自分とは真逆なので羨ましいです。学科は違えどいつでも会えるところにいてくれて嬉しいです。たまには女子校の頃の気持ちを思い出すためにゆっくり話したいです。

### MY CHALLENGE!

今まで教科書に書いてあることが正しいと思っていたのに、必ずしもそうではないということを学びました。卒業後は大学で学んだことを活かし、歴史に関する職に就きたいです。



AKANE SEKIGUCHI

関口 茜 さん

表現文化学科 放送・映像表現コース 2年  
[埼玉県 春日部女子高等学校出身]

田口さんは高校の同級生で部活動も同じ。3年間一緒にいたので、なんとなく私のことを理解してくれてるんじゃないかなと思っています。私が自分でもなんて言ったらいいかわからない時、「言いたいことはわかるよ!」と理解してくれる友達ってそう多くいないので本当に有難いです。

### MY CHALLENGE!

1年次からスタジオで番組制作を学び、プロの制作会社の方と一緒に番組制作に携わることもあって、スタジオ技術が身につきました。将来は番組制作スタッフを目指しています。

### Our Favorite Things 私たちがつないだモノ・コト



吹奏楽部

最初に会ったのは、高校1年の頃の部活動見学のときでした。女子があまりやらない低音パートをお互い希望し、一緒に過ごす時間も長かったです。

### NEXT PAGE IS...



関口さんと同じコース、  
大澤さんの  
すてきな【映像有志団体】  
つ・な・が・り





## 鴨台クリエイティブフィルム [映像有志団体]で、つ・な・が・る



RENA OSAWA

大澤 玲菜 さん

表現文化学科 放送・映像表現コース 2年  
〔埼玉県 上尾高等学校出身〕

都竹さんはカバディの強化選手に選ばれるほどの実力の持ち主です。きれいな手足に痣があるのを見ると、いかに頑張っているのかがわかります。たまに試合の動画を見せてもらうのですが、その姿は本当にかっこいいです。笑顔が素敵で男女関係なく、誰からも愛される人柄です。

### MY CHALLENGE!

バラエティ、ドラマ、脚本など、幅広く学んできて、一つの作品にたくさんの人が関係していることを学びました。在学中に自分がディレクションした番組を制作してみたいです。

SHIORI TSUZUKU

都竹 栞 さん

表現文化学科 放送・映像表現コース 2年  
〔岐阜県 鶯谷高等学校出身〕



小柄でいつも会うたびに可愛いと思ってます。とにかく好きなものに一途で、仕事や勉強に対しても真剣に取り組んでいて、そういう姿勢がすごく真面目で彼女の魅力でもあると思います。そしていちばんの魅力は全力で笑っている時の笑顔。みんなを幸せにするマジックスマイルです！

### MY CHALLENGE!

スタジオの機材の使い方、動画や静止画の編集方法、シナリオの書き方など、クリエイティブなことを学びました。今後は学んだ知識を糧に業界で仕事をしたいと考えています。

## With Group



### Our Favorite Things 私たちをつないだモノ・コト



鴨台クリエイティブ  
フィルム

映像有志団体の映像制作活動で、お互いの作品の撮影を一緒にしたり、企画を立てる際に相談しあったり、作品制作を通じてとても仲良くなりました。

### NEXT PAGE IS...



都竹さんと同じ部活、  
齋藤さんの  
すてきな【部活】  
つ・な・が・り







## カバディ部 [部活]で、つ・な・が・る



YUUKA SAITO

齋藤 優桂 さん

人間科学科 2年  
[千葉県 八千代東高等学校出身]

小松さんは周りがよく見える、優しくて気遣い上手な人です。誰かが落ち込んでいれば自ら声を掛けて励まし、年齢を問わず皆から尊敬されています。何事にも一生懸命でいつもその姿に私自身奮い立ちます。言葉選びに斬新さがあり面白く、彼女と会話をするといつも新しい発見があります。

### MY CHALLENGE!

社会学の授業で政府の統計データにもウソが隠れていることがあると知り、出された情報を闇雲に信じるのではなく、まずは自分で確かめてみよう、という姿勢が身につきました。



HANA KOMATSU

小松 華 さん

人間科学科 2年  
[埼玉県 浦和北高等学校出身]

齋藤さんは一見おとなしそうと思いきや意外とお喋りだったり、独特の雰囲気と言葉遣いでギャップ満載です。カバディに対して向上心が強く努力家で、わからないことはわかるまで先輩に聞いて練習する姿をととても尊敬しています。これからも友達としてチームメイトとしてよろしくね！

### MY CHALLENGE!

心理学、社会学、身体科学の視点で“人”について学んでいるので、多様な面から“人”を見ることができるようになりました。今後は身体活動について学びたいと思います。

*Our Favorite Things*  
私たちをつないだモノ・コト



カバディ部

2人とも高校時代は文化部だったのですが、新しいことにチャレンジしたくてカバディ部に入部しました。運動することで食欲がさらにわき、お互いの好物であるラーメン店を巡る計画を立てました。

TO BE CONTINUED!

TO  
VOL.104



# #Ohdai Instagram 103



## ▼ PROFILE



**松本 菜里沙**

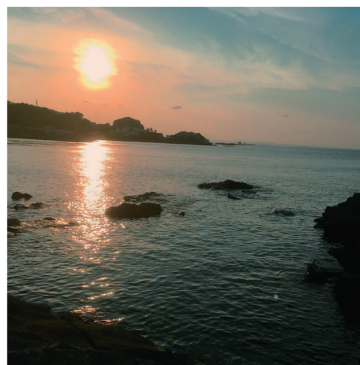
NARISA\_MATSUMOTO

地域創生学科 1年  
[埼玉県 大宮南高等学校出身]

StepByStep 所属  
邦ロックにハマってます！



♡ #イチオシ!マイブーム



Q 最近海に行くのが好きで、これは横須賀市の観音崎海水浴場のサンセットです。とっても綺麗！！

♡ #自分の周りのkawaii! cool!



Q 私愛用のケータイカバーと定期入れです！CRAFTHOLICかわいい！

## ▼ PROFILE



**神原 明裕**

AKIHIRO\_KAMIHARA

仏教学科 宗学コース 2年  
[佐賀県 三養基高等学校出身]

仏教学科2年の神原明裕です  
お寺に随身してます。  
ボクシングもしてます。



♡ #イチオシ!マイブーム



Q ボクシンググローブです。宝物です。

♡ #自分の周りのkawaii! cool!



Q 今年から飼い始めた ギラファノコギリクワガタ。

## ▼ PROFILE



**日比 菜摘**

NATSUMI\_HIBI

表現文化学科 放送・映像表現コース 2年  
[岐阜県 武義高等学校出身]

岐阜出身です。  
カバディ部のマネージャーを  
しています。



♡ #イチオシ!マイブーム



Q 舞台観劇。生の芝居は鳥肌が立ちます。

♡ #自分の周りのkawaii! cool!



Q 全力で戦うカバディ部のみんな。かっこいい！

## ▼ PROFILE



**清野 孔文**

YOSHIFUMI\_KIYONO

歴史学科 日本史コース 3年  
[群馬県 桐生第一高等学校出身]

硬式野球部でキャッチャー  
やってます！



♡ #イチオシ!マイブーム



Q 野球部の仲間と練習終わりやOFFにビリヤード！

♡ #自分の周りのkawaii! cool!



Q コーヒーを淹れてる時が1番落ち着く(▽▽)



♡ #紹介！カバンの中身！



Q いつもこんな感じ！特にプリントを仕分けられるファイルはおすすめです！

♡ #最近食べたおいしかったもの



Q 私の誕生日の日の晚餐！（笑）豪華な料理運に大満足でした！！

♡ #マイフェイバリット大正大学！



Q 地域創生専用のラーニングcommons！特にソファーがお気に入り、たくさんの人との交流ができていつも楽しい！

♡ #いつもありがとう！感謝したい人



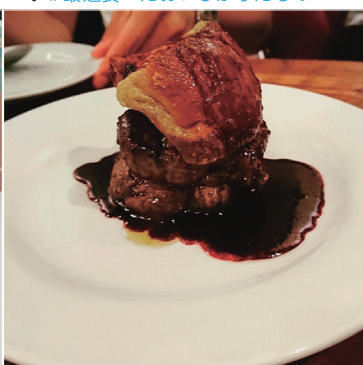
Q 感謝してる人はたくさんいるけど特にいつメン！地域創生のみんなには感謝してもしきれない（笑）ホントにありがとう！！

♡ #紹介！カバンの中身！



Q 声明というお経で音を確認するための調子笛とチューナー

♡ #最近食べたおいしかったもの



Q 渋谷のDRAEMONというお店で食べたフォアグラです

♡ #マイフェイバリット大正大学！



Q 学校の行事でよくお勤めをする場所です。雰囲気が好きです。

♡ #いつもありがとう！感謝したい人



Q 友達です。友達のおかげで大学生活楽しく過ごさせています

♡ #紹介！カバンの中身！



Q お寿司が好きすぎてノートにまで出沒。

♡ #最近食べたおいしかったもの



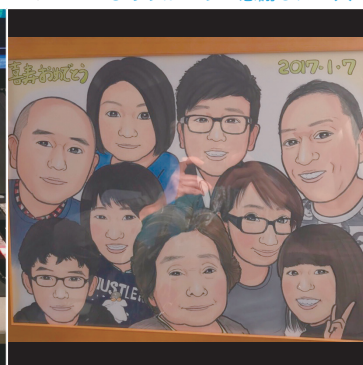
Q カバディの大会で行った広島で食べた牡蠣うどん！

♡ #マイフェイバリット大正大学！



Q 初めてスタジオに入った時は、興奮しました。

♡ #いつもありがとう！感謝したい人



Q 遠くから応援してくれてありがとう！

♡ #紹介！カバンの中身！



Q 特に大した物はありません、、、（笑）

♡ #最近食べたおいしかったもの



Q 実家に帰った時に食べた！ありがたけど夏の風物詩（^^）

♡ #マイフェイバリット大正大学！



Q 野球部しか知らないグラウンドの風景！

♡ #いつもありがとう！感謝したい人



Q 同期の仲間たち！いつも支えてもらってます！！これからもよろしく（^^）v



座・ガモール  
グランドオープン

大正大学と豊島区・巣鴨地域の3つの商店街でつくる一般社団法人が運営するアンテナショップ「座・ガモール」が2017年5月14日に2店舗オープンしました。1号店は、都電荒川線の庚申塚停留場近くの商店街にあり、山形県庄内町・新庄市・最上町・長井市、宮城県南三陸町・登米市の物産品200～300アイテムを販売

しています。店舗では、大学の学生が接客や商品陳列をするほか、売り上げ目標を立てるなど店舗運営にも関わっています。今後は、地域実習で得た知識やスキルを活用して、店舗でのイベント企画や買い物客へのヒアリングなども行い、各商品のプロモーション評価、商品開発などを実施していく計画です。巣鴨地蔵通り商店街に

ある2号店は、本学仏教学部と縁が深い京都の伝統工芸品などを取り扱っています。首都圏がもと地域の共生をはかり、地域の新しい「発信型・イノベーション店舗」として位置づけ、参加自治体ならではの地域資源を掘り起し、新しい付加価値を創出するとともに、参加地域のブランド化を図る店舗として運営します。

T-DUCK  
NEWS EXPRESS

## 鴨台盆踊り



7月7日(金)～8日(土)に大正大学の夏の風物詩である「第7回鴨台盆踊り」を開催しました。本イベントは、企画の立案から当日の運営まで全ての工程を「サービスラーニング(地域をフィールドに課題解決等を行い、学びを展開する授業科目)」受講学生がプロデュースしています。学生自ら大学職員とコンタクトを取り、備品の手配や対外的な広報の依頼などを行い、自ら行動する力、関係者との関係構築や調整力などを養います。

学生たちの努力の甲斐あり、当日は天候にも恵まれ2日間で約4,500名(そのうち浴

衣を着用した方1,038名)が来場し、学内全体が人で溢れかえるほど大盛況でした。回数を重ねるごとに来場者が増え、大正大学と地域の繋がりがより強くなっていると感じました。

今年は、東日本大震災7回忌の追悼施餓鬼法要を実施するとともに、昨年に引き続き被災地への義援金を集める浴衣基金(浴衣姿の来場者1人に対して50円を積立てる基金)も実施しました。

なお、浴衣基金で積立てた51,900円は、東日本大震災の被災地に寄付しました。

大正大学地域構想研究所  
「阿南市局」開設

7月19日(水)に徳島県阿南市にて本学地域構想研究所阿南支局の開所式が執り行われました。当日は、阿南市長の岩浅嘉仁様をはじめ、徳島県県南県民局長、地元高専、高校の校長先生や教頭先生など重職の皆様にお集まりいただきました。

阿南市とは、昨年の地域創生学部の開設と

ともに第3クォーターに1期生8名が地域実習でお世話になりました。地元の皆様にお借りした自転車で縦横無尽に活動し、貴重な学びと関係をいただきました。今秋は、2期生7名がお世話になります。1期生とは違う2期生なりの面白さと可能性をもった学生達です。学生達の今後の活躍にご期待下さい。



## 島根県益田市包括協定締結

7月20日(木)に島根県益田市とまちづくりや人材育成など幅広い分野で連携する包括協定を締結いたしました。同市とは、本学の卒業生がいるご縁があり協定締結が実現いたしました。調印式の模様が地元のケーブルテレビ番組

「ひとまる情報局」にて放送されました。なお同市には、今秋より地域創生学部2期生の学生を受け入れていただき、食事や移動手段の手配、実習の協力等でお世話になります。学生達の今後の活躍にご期待下さい。

## 仏陀会



6月7日(水)に礼拝堂にて開催されました。仏教の開祖であるお釈迦様の威徳を讃え、そのご恩に感謝し法要を行いました。併せて、本学関係物故者と東日本大震災物故者並びに熊本地震物故者を含む多くの方々に偲び追悼法要を執り行いました。その後、大塚伸夫学長による「お釈迦様の教え」についての法話をいただきました。



[大正大学] 最新情報

高大接続システム改革  
フォーラム

6月24日(土)に「第3回高大接続システム改革研究会(高大接続の全貌～よりよい社会を創り出すために～)」が開催され、全国各地の教育関係者約400名にご出席いただきました。本フォーラムは、3部で構成されており、第1部では、文部科学省より4名の方に学習

指導要領や高等学校基礎学力テスト、大学入学選抜等についてそれぞれご講演いただきました。第2部では、スーパーグローバルハイスクール指定校である順天高等学校長の長塚篤夫様と世界で活躍する人材の選抜を趣旨とした入学試験を実施している大阪大学高等教

育・入試研究開発センター長の川嶋津夫様からそれぞれの取り組みや事例についてご講演いただきました。第3部では、1部・2部の講演者とリクルート進学総研所長の小林浩様、本学地域構想研究所教授の浦崎太郎が登場し、シンポジウムを実施しました。

第23回夏季デフリンピック出場の  
卓球部川崎瑞恵さん2種目で  
銅メダル獲得

## 【カヌー部】

■5/26～5/28: ICF カヌースプリントワールドカップ第2戦(ハンガリー)

男子カナディアンペア: 準決勝進出

■6/2～6/4: ICF カヌースプリントワールドカップ第3戦(セルビア)

男子カナディアンペア: 決勝進出

出場選手: 佐藤光

■8/23～8/27: カヌースプリント世界選手権大会(チェコ)

出場選手: 佐藤光、西川諒

## 【卓球部】

7/18～7/30: 第23回夏季デフリンピック競技大会 サムスン2017 卓球競技(トルコ)

女子団体・ダブルス: 第3位

出場選手: 川崎瑞恵(写真左)

## 【硬式野球部】

4/1～6/20: 東都野球連盟 春期リーグ戦

3部: 優勝

2部・3部入替戦: 敗退



## 【空手道部】

5/5: 第53回東日本大学選手権大会

女子団体組手: 第3位